

第68回 秋田市芸術祭

古典芸能のつどい

と き 令和7年 **11月23日** (日祝)
開 場 13:30
開 演 14:00 終演予定 15:30頃

と ころ あきた芸術劇場ミルハス
中ホール



あきた芸術劇場
Akita Arts Theatre
ミルハス

主 催 一般社団法人秋田市文化団体連盟 共 催 秋田市

後 援 秋田市の文化を育てる市民の会
秋田魁新報社・NHK秋田放送局・A B S 秋田放送・A K T 秋田テレビ・A A B 秋田朝日放送・エフエム秋田

北国秋田でも今年の夏は異常に暑い夏で有り、長い夏でした。

やっと短いけれど変化に富んだ秋田の秋の訪れです。本日は「古典芸能のつどい」にお越し頂きましてありがとうございます。

古典芸能は人々の心を魅了し続ける日本人の心が育ててきた文化です。

多種多様な文化があふれている昨今、古典芸能を扱った映画が古典の世界を知らない人も巻き込んで大ヒットし、改めてその良さが日本人全体に見直されています。これをきっかけの一つにして日本独自の文化がもっと広がっていったらと思います。

文化団体連盟の邦舞邦楽部門に所属する十団体一同はこれからも古典に真摯に向き合い取り組んでまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

秋の一時をごゆっくりお楽しみください。



古典芸能のつどい

出演者一同

演 目

一、箏 曲
八 重 衣

二、長 唄
松 の 緑

三、清 元
玉 屋

四、笛
お 夏

五、長 唄
都 鳥

六、常 磐 津
子 宝 三 番 叟

七、常 磐 津
菊 の 栄

八、箏 曲
秋 の 言 の 葉

一、八重衣やえごろも (邦楽)

箏曲清絃会

箏

五い佐さ山やま川かわ足あ
十が風らし沢さわ田だ邊べ達だち

惠けい志し典の昌しょう清せい
乃の賀が賀が賀が賀が賀が

三絃

磯いそ田た田た稀いな館たて

野の村むら村むら葉は山やま

光みつ朋ほう寿ひさ興こう蓉よう

賀が賀が賀が賀が賀が

解説

「八重衣」は、「百人一首」から「衣」の語を含む歌を全て抜き出し、第一歌に春、第二歌に夏、第三～五歌に秋の歌を配したものです。複雑な構成と技巧を凝らした風格のある大曲です。



長 唄
三、松の緑
（邦舞）
桜朱乃会

坂 坂 坂
東 東 東
晃 桜
路 要 朱

解 説

安政二年頃の作品。

禿が松の位の太夫に出世するようにとの願いを込めた、目出度い趣向となっております。全体に廓情緒の濃い作品ですが、格調の高さから粹に演じるよりも上品に踊ることを心がけたいと思います。

坂東流では、試験の課題曲にもなっている大事な作品です。

清 元
三、玉屋
（邦舞）
丈柳会

花
柳
丈陽夏

解 説

天保三年七月に江戸中村座で、四世中村歌右衛門により初演されたものです。当時子ども相手に流行したしゃぼん玉売りが日傘をさしてしゃぼん玉液を入れた箱を首から提げ、江戸情緒たつぷりとにぎやかに踊ります。

笛

四、お

夏なつ
(邦楽)

連々篠歌会

米よ新しん小こ
谷や保ぼ泉いずみ
桂けい伴とも篠しの
歌か歌か歌か

関せき佐さ佐さ
藤とう藤とう
恵え遥はる詠えい
美み歌か歌か歌か

解説

姫路城下の旅籠屋の娘、お夏と、手代の清十郎が恋仲となり、二人は駆け落ちをしようとして、捕まり、清十郎は打ち首となります。お夏は狂乱し、行方知れずとなります。

二人の叶わなかった恋と、仲睦まじかった想い出や、狂おしく激しい高ぶりなど、世間の仕打ちとの間（ハザマ）に揺れる様を笛と三絃で表現したいと思います。



五、都^{みやこ}鳥^{どり}
(邦舞)
藤^{ふじ}袖^{かけ}会^{きよはな}

解 説

季節は春から夏、舟遊びや物売り舟が所狭しと往来する隅田川の情景をうたった作品です。恋しい人を待っている間の屋形船から見える「門前仲町」「柳橋」「向島」「浅草 待乳山」などの風景、そして待ちわびた人との逢瀬を楽しみます。「都鳥」の名称は在原業平の和歌「名にしおばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと」で一躍有名になりました。



常磐津

六、子宝三番叟こだからさんばそう（邦舞）

港柳会

花柳はなやぎ
仲登なかとし
真央まお

解説

大名と太郎冠者のふたりが登場します。

歌詞に現れる「佐保姫さほひめ」は、十二人の子を産んだそうです。

大名は、その子たちの名づけ親であり、太郎冠者とともに子どもたちの誕生を祝い、健やかな成長を祈ります。

子どもの四季の遊びの場面は、軽快で息びつたりに踊り合い、最後は、天下泰平の世を願うという、おおらかで品のよい作品です。



常盤津

七、菊きくの栄さかえ
(邦舞)

静蘭会

藤間静蘭
ふじ ま せい らん

解説

作者は常盤津菊三郎で、歌詞は同じ題名の箏曲から取ったものと言われていますが、菊三郎は常盤津らしい骨格のある御祝儀曲に仕上げて、皇室の御紋章である菊の花を中心に、御代を祝い、花をたたえ、長寿をことほぐすといっためでたさを重ねています。



八、秋の言の葉あきこと は (邦楽)

箏 曲
作詞 池田 茂政
作曲 西山徳茂都
箏曲宮城会

本手
野の 三 益 洪 藤 小
口 浦 子 谷 林 野
裕 光 典 久 栄 睦
子 子 子 子 子 子
替手
赤 出 田
川 雲 中
郁 さ 郷
子 と み 子

解 説

秋の露や虫の音、遠くに聞こえる砧の音などを織り込みながら、静かな秋の情緒を巧みに表現した感傷的な歌曲です。後歌の「昔人の言の葉を」は拾遺集の源順の和歌「水の面に照る月なみを数ふれば今宵ぞ秋の最中なりける」を意味しており、ここから曲名がつけられています。また、後歌替手の秋の爽やかさの理由の一つは、古今組四季の曲の替手部分作曲に携わった松坂春栄の作曲による所以とされています。

明治箏曲の代表的な名作の一つで邦楽の中でもかなり人気の高い曲です。

邦楽

箏曲宮城会

野口裕子

○九〇―九五三七―八七六三

箏曲清絃会

足達清賀

○九〇―六四五〇―三一二九

篠笛

連々篠歌会(篠笛)

小泉篠歌

○九〇―六七八四―九二二三

尺八

竹龍館

三浦龍畝

○八〇―五二三四―三二八二

邦舞(日本舞踊)

静蘭会

藤間静蘭

○九〇―一〇六一―四一一

藤袖会

藤蔭小枝

○九〇―四六三六―〇七八二

千輪乃会

猿若聖花

○九〇―六七八〇―七六六一

港柳会

花柳仲登嗣

○八〇―六〇二八―四五八六

桜朱乃会

坂東桜朱

○九〇―二九八七―六六八四

丈柳会

花柳丈陽人

○九〇―二六〇三―八八四二

一般社団法人 秋田市文化団体連盟

秋田市千秋明德町2番52号

(あきた芸術劇場ミルハス内)

T E L (018) 853-5596

F A X (018) 853-5597